

潮嶽神社

潮嶽神社は、伝説の初代天皇である神武天皇の神聖な先祖にまつわる神話に登場する、悲劇のキャラクター「海幸彦」を祀った日本で唯一の神社です。海幸彦は熟練した漁師でしたが、ある日、狩人で弟の山幸彦と道具を交換するよう説得されました。しかし、山幸彦は海幸彦の釣り針を失くしてしまい、そのことで何年にもわたって兄弟の関係にヒビが入り、最終的には山幸彦が兄を小さなボートで海に追いやりました。海幸彦は、何日も漂流した末に隔絶の地で岸边に衝突し、その地で余生を過ごしました。地元の言い伝えによると、その場所が現在の潮嶽神社がある場所でした。この神話は、神社の信者が二人の兄弟の間に起きたような不和を避けるために、互いに縫い針を借りることを控えるべきという、今日まで生き続ける何世紀にも及ぶ伝統に影響を与えたと言われています。

潮嶽神社がいつ創建されたのかは不明ですが、現在の宮崎県南部にある宗教の殿堂として長い間影響力を持ってきました。江戸時代（1603～1867 年）、神社はこの地域の大名であった伊東氏によって維持され、1832 年には同氏によって再建されました。この神社で演じられる神楽踊りも江戸時代から始まりました。神楽は毎年 2 月 11 日に演じられ、これからの季節の豊作を祈願します。踊りは、演目として海幸山幸神話やその他古代伝説の改作があり、イノシシや魚の頭を神々に捧げるお祭りの一部となっています。